

哲学研究 第四十七卷 総目録

自昭和五十六年十一月
至昭和六十二年九月

随眠と帰属の理論……………	第一冊	一	一五	山内得立
論評と構築とのあひだ……………	第一冊	一六	七八	酒井修
物理学と宇宙論における最近の試み……………	第一冊	七九	九三	佐藤文隆
——統一ゲージ理論と力の法則の相対化——				
カントに於ける最高善の实践的必然性に関する一試論……………	第一冊	九五	一二四	北岡武司
デカルトの自由意志論……………	第二冊	二二	五五	西村嘉彦
相互作用論から見たキアリア分析……………	第二冊	五六	一〇五	宝月誠
——『ジャック・ローラー』の解釈の試み——				
ヘーゲルの啓示宗教論……………	第二冊	一〇六	二二三	水見潔
——『精神現象学』に於ける——				
共同体論における共同性の問題……………	第三冊	一八	五三	中久郎

「分割法」考案……………第三冊 五四(342)——七六(384)……………小池 澄夫

——プラトン後期對話篇への視点——

主観と自発性……………第三冊 七七(365)——一二二(410)……………酒 井 潔

——ライプニッツ形而上学の根本問題——

古代キリスト教における「好奇心」の問題……………第四冊 一(437)——四三(479)……………水 垣 渉

論理における原理的なるもの……………第四冊 四四(480)——六二(498)……………大 出 晃

——アリストテレスの所論をめぐって——

力学における決定論と意識の自由について……………第四冊 六三(499)——八九(525)……………品 川 嘉 也

——情報構造としての意識——

デカルトにおける永遠真理創造説について……………第四冊 九〇(526)——一〇七(543)……………平 松 希伊子

トマスにおける《レス》と《エッセンチア》……………第五冊 一(569)——三一(599)……………山 田 晶

絵画空間について(承前・完)……………第五冊 三二(600)——六〇(628)……………新 田 博 衛

——アルベルティとヒルデブランド——

ルターとオックカム主義の伝統……………第五冊 六一(629)——九八(666)……………金 子 晴 勇

物自体と『純粹理性批判』の方法……………第五冊 九九(667)——一三五(703)……………福 谷 茂

フレーゲにおける論理哲学の形成……………	第六冊	一	(729)	—	五八	(786)	……	野本和幸
——意味論の視点から——								
緯書鄭氏学研究序説……………	第六冊	五九	(787)	—	八七	(815)	……	池田秀三
探究と倫理……………	第六冊	八八	(816)	—	一二七	(855)	……	伊藤邦武
——バースにおけるプラグマティズムと規範学の理論——								
人類はなぜ人類なのか……………	第七冊	一	(881)	—	二七	(907)	……	江原昭善
——「未完の人類」——								
曼荼羅の構成（未完）……………	第七冊	二八	(908)	—	四四	(924)	……	清水善三
——	第十一冊	一	(1979)	—	一七	(1995)	……	清水善三
いわゆる「原型」思想について……………	第七冊	四五	(925)	—	六二	(942)	……	日高敏隆
——動物学における「比較」概念の問題——								
体験と形而上学……………	第七冊	六三	(943)	—	九六	(976)	……	林愛子
——ジャンケレヴィッチ哲学の理解の試み——								
最後の神……………	第八冊	一	(1001)	—	三二	(1032)	……	辻村公一
——ハイデッガーの思索における——								
“状況”の変化と“もの自身”の変化……………	第八冊	三三	(1033)	—	九四	(1094)	……	藤澤令夫
——プラトン『テアイテトス』(154B~155D)における背丈比べのパラドクスの哲学的意味——								

アリストテレス『詩学』における《プラグマ》の意味について

第八冊 九五(1095) — 一三六(1136) …… 山田晶

一八〇一年夏のヘーゲル

第八冊 一三七(1137) — 一九九(1199) …… 酒井修

——『イエーナ時代の論理学』研究(一)——

クマーリラの vakyartha

第八冊 二〇〇(1200) — 二〇六(1206) …… 服部正明

(文章の意味)論——序

華夷觀念の変容

第八冊 二〇七(1207) — 二二八(1228) …… 日原利国

沈黙の思考

第八冊 二二九(1229) — 二三六(1236) …… 本吉良治
第九冊 一(1621) — 九(1629) ……

海馬の「空間地図説」対「時間処理説」の検討

第八冊 二三七(1237) — 二五八(1258) …… 平野俊二

美的価値の問題

第八冊 二五九(1259) — 二九〇(1290) …… 吉岡健二郎

行為理論における「秩序」の問題

第八冊 二九一(1291) — 三二三(1323) …… 中久郎

輪廻と超越

第八冊 三二四(1324) — 三五九(1359) …… 梶山雄一

——『城邑経』の縁起説とその解釈——

「ヨブ記」における問いの問題

第八冊 三六〇(1360) — 三八二(1382) …… 水垣渉

普遍についての試論……………第八冊三八三(1383)……………木曾好能

——ロック、バークリー、ヒュームの普遍論の批判的検討——

中国古典における訓詁注釈の思想……………第八冊四一八(1418)……………池田秀三

ジャワの小学生の連想反応……………第八冊四四〇(1440)……………清水御代明

——筆記反応の読みとりについての覚書——

江戸時代の外科書及び相書と人体表現の
関係……………第八冊四五三(1453)……………佐々木丞平

——円山応挙の人物図研究序説——

相互作用論のモデル序説……………第八冊五〇〇(1500)……………宝月誠

第十冊 二一(1799)……………七二(1850)(1895)

構想力と超越の問題……………第八冊五三六(1536)……………長谷正当

インド・チベット論理学に於ける「所証相
似」(sadyasama)の問題……………第八冊五六七(1567)……………御牧克己

ヒュームにおける理性と情念……………第九冊 一〇(1650)……………土岐邦夫

「有の間」から「回思」へ……………第九冊 三六(1656)……………松丸寿雄

——ハイデッガーにおける「思索」と「詩作」について——

語・意味・対象

——『クラテュロス』におけるプラトンの言語哲学——

第九冊 七三(1693)——二一六(1736)……中畑正志

普遍概念としての多様体

第十冊 一(1779)——二〇(1798)……澤口昭聿

事物の類似たるイデア

——ボナヴェントゥラのイデア論における問題——

第十冊 七三(1851)——一〇二(1880)……長倉久子

デカルトにおける自然学の形而上学的基础づけ

——伝統的存在論との対比において——

第十冊 一〇三(1881)——一五八(1936)……小林道夫

「真理への意志」

——近世哲学に於けるその内的変動——

第十一冊 一八(1906)——四五(2023)……圓増治之

デカルトにおける意志の問題

——意志と *indifferentia* ——

第十一冊 四六(2024)——八八(2066)……安藤正人

トマス倫理思想の基礎

——至福への本性的欲求について——

第十二冊 八九(2067)——二一四(2092)……中村治

空と慈悲

第十二冊 一(2141)——二七(2167)……梶山雄一

哲学と法律学

——実践哲学の復権の一側面——

第十二冊 二八(2168)——五八(2198)……田中成明

劇としての『精神現象学』……………第十二冊 五九(2199) — 九四(2234) ……門 脇 健

— 一八〇六年のシェークスピア —

スピノザの倫理思想における目的因の否定……………第十二冊 九五(2235) — 一二二(2262) ……真 田 郷 史

——人間本性の型 (exemplar humane naturae) をめぐって——

〔資料・学界展望〕

資料 西田幾多郎・全集未収載遺稿……………第九冊 一一七(1737) — 一二二(1742) ……第十冊 一五九(1937) — 一六五(1943) ……第十一冊 一一五(2093) — 一二九(2107) ……第十二冊 一二三(2263) — 一三九(2279)

学界展望 西田哲学をめぐる最近の論点……………第十冊 一六六(1944) — 一七九(1957) ……大 橋 良 介

——書評をかねて——

〔書評・調査等〕

書評 Friedrich-Wilhelm von Herrmann: Heideggers Philosophie der Kunst……………第一冊 一二五(125) — 一三三(133) ……加 藤 哲 弘

書評 浜田義文『カント倫理学の成立——

イギリス道徳哲学及びルソー思想と……………第二冊 一二三(269) — 一三〇(276) ……小 熊 勢 記

書評 川原栄峰『ハイデッガーの思惟』……………(第三冊二二三(411)——二三四(422))……………竹内 亨

新刊紹介 中久郎『デュルケームの社会理論』……………(第四冊二〇八(544)——二一九(555))……………中 島 道 男

調査 エルヴィン・ベルツの遺産……………(第五冊二三六(704)——二四〇(708))……………佐々木 丞 平

調査 道教の旅から……………(第五冊二四一(709)——二四六(714))……………小 南 一 郎

報告 パサデナの冬……………(第七冊九七七(977)——九九九(979))……………平 野 俊 二

書評 下村寅太郎『ブルクハルトの世界』……………(第七冊二〇〇(980)——二〇七(987))……………嶺 秀 樹

書評 神野慧一郎『ヒューム研究』……………(第九冊二三五(1755)——二四二(1762))……………田 村 均

書評 岩波哲男『ヘーゲル宗教哲学の研究——ヘーゲルとキリスト教』……………(第十冊二八〇(1958)——二八七(1965))……………氷 見 潔

書評 藤田正勝『若きヘーゲル』……………(第十一冊二三九(2117)——二四七(2125))……………早 瀬 明

書評 野本和幸『フレイゲの言語哲学』……………(第十二冊二四二(2282)——二四七(2287))……………藤 本 隆 志

〔討議・討論〕

討議 「純粹実践理性の批判」とは何を意味しうるか……………(第六冊二二八(856)——二三三(861))……………森 口 美 都 男

討議 品川嘉也氏の最近論文『力学における決定論と意識の自由について』を……

(第六冊一三四(862)——一三六(864))……山崎和夫

読んで

討議 山崎教授の疑問に答う——力学における決定論とは何か

(第六冊一三七(865)——一四〇(868))……品川嘉也

——古典力学の隠された変数——

討論 田村均氏の書評に答う……(第十一冊一三〇(2108)——一三八(2116))……神野慧一郎

〔回想・記念号記事〕

第五百五十号記念特集号記事

『哲研』に書いたもの……(第八冊五九五(1595)——六〇〇(1600))……田中美知太郎

『哲学研究』と私……(第八冊六〇〇(1600)——六〇一(1601))……長尾雅人

第五五〇号発行を祝して……(第八冊六〇二(1602)——六〇四(1604))……澤瀉久敬

『哲学研究』との私の係わり合い……(第八冊六〇四(1604)——六〇七(1607))……船山信一

『哲学研究』回顧……(第八冊六〇七(1607)——六〇八(1608))……高峰一愚

回想 留学当時の思出

第八册六〇九(1609) — 六一七(1617)
第九册二三(1743) — 三四(1754) ……白井二尚

回想 『哲学研究』の思い出

第十二册二四〇(2280) — 二四二(2281) ……小田武

〔彙報欄記事〕

京都大学文学部哲学科卒業論文題目

第一册二三四(134) — 二三六(136)

— 昭和五十五年度 —

京都大学文学部哲学科卒業論文題目

第二册二三六(282) — 二三九(285)

— 昭和四十八年度 —

京都大学文学部哲学科卒業論文題目

第三册一三五(423) — 一三八(426)

— 昭和五十六年度 —

京都大学文学部哲学科卒業論文題目

第四册二二六(562) — 二二九(565)

— 昭和四十九年度 —

京都大学文学部哲学科卒業論文題目

第五册一五四(722) — 一五七(725)

— 昭和五十年度 —

京都大学文学部哲学科卒業論文題目

第六册一四一(869) — 一四三(871)

— 昭和五十七年度 —

京都大学文学部哲学科卒業論文題目……………(第七冊一五(995)——一二七(997))

——昭和五十一年度——

京都大学文学部哲学科卒業論文題目……………(第九冊一四四(1764)——一四六(1766))

——昭和五十八年度——

京都大学文学部哲学科卒業論文題目……………(第十冊一八八(1968)——一九二(1969))

——昭和五十九年度——

京都大学文学部哲学科卒業論文題目……………(第十二冊一五七(2135)——一五九(2137))

——昭和五十二年度——

京都大学大学院文学研究科(哲学系) 修士課程修了論文題目……………(第一冊一三六(136)——一三七(137))

——昭和五十五年度——

京都大学大学院文学研究科(哲学系) 修士課程修了論文題目……………(第二冊一三九(285)——一四一(287))

——昭和四十八年度——

京都大学大学院文学研究科(哲学系) 修士課程修了論文題目……………(第三冊一三八(426)——一三九(427))

——昭和五十六年度——

京都大学大学院文学研究科(哲学系) 修士課程修了論文題目……………(第四冊一二九(565)——一三〇(566))

——昭和四十九年度——

哲学研究 第五百五十四号

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目

——昭和五十年度——

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目

——昭和五十七年度——

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目

——昭和五十一年度——

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目

——昭和五十八年度——

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目

——昭和五十九年度——

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目

——昭和五十二年度——

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
博士課程単位修得者ならびに
博士後期課程学修者氏名

——昭和五十四年度——

.....
（第五冊一五七（725）——一五九（727））

.....
（第六冊一四三（871）——一四五（873））

.....
（第七冊一一七（997）——一一九（999））

.....
（第九冊一四七（1767）——一四八（1768））

.....
（第十冊一九一（1969）——一九二（1970））

.....
（第十一冊一六〇（2138）——一六一（2139））

.....
（第一冊一三七（137））

京都大学大学院文学研究科（哲学系）

博士課程単位修得者ならびに

博士後期課程学修者氏名

——昭和五十五年度——

.....
（第一冊一三七（137）——一三八（138））

京都大学大学院文学研究科（哲学系）

博士課程単位修得者研究論文要旨題目

——昭和四十八年度——

.....
（第二冊一四一（287）——一四二（288））

京都大学大学院文学研究科（哲学系）

博士課程単位修得者ならびに

博士後期課程学修者氏名

——昭和五十六年度——

.....
（第三冊一三九（427）——一四〇（428））

京都大学大学院文学研究科（哲学系）

博士課程単位修得者研究論文要旨題目

——昭和四十九年度——

.....
（第四冊一三〇（566）——一三一（567））

京都大学大学院文学研究科（哲学系）

博士課程単位修得者研究論文要旨題目

——昭和五十年度——

.....
（第五冊一五九（727）——一六〇（728））

京都大学大学院文学研究科（哲学系）

博士後期課程学修者氏名

——昭和五十七年度——

.....
（第六冊一四五（873））

哲学研究 第五百五十四号

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
博士課程単位修得者研究論文要旨題目

——昭和五十一年度——

.....
（第七冊一九〇—一九九）
（999）
九九（979）

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
博士後期課程学修者氏名

——昭和五十八年度——

.....
（第九冊一四八）
（1768）

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
博士後期課程学修者氏名

——昭和五十九年度——

.....
（第十冊一九三）
（1971）

京都大学大学院文学研究科（哲学系）
博士課程単位修得者研究論文要旨題目

——昭和五十二年度——

.....
（第十一冊一六一—一六二）
（2139）
一六二（2140）

京都大学文学部哲学科講義題目

——昭和五十六年度——

.....
（第一冊一三八—一四五）
（138）
一四五（145）

京都大学文学部哲学科講義題目

——昭和四十八年度——

.....
（第二冊一三一—一三六）
（277）
一三六（282）

京都大学文学部哲学科講義題目

——昭和五十七年度——

.....
（第三冊一四〇—一四六）
（428）
一四六（434）

京都大学文学部哲学科講義題目

——昭和四十九年度——

.....
（第四冊二〇〇—二〇六）
（556）
二〇六（562）

京都大学文学部哲学科講義題目
——昭和五十年度——
……………
第五冊一四八(716)——一五四(722)

京都大学文学部哲学科講義題目
——昭和五十八年度——
……………
第六冊一四五(873)——一五二(880)

京都大学文学部哲学科講義題目
——昭和五十一年度——
……………
第七冊一〇八(988)——一一五(995)

京都大学文学部哲学科講義題目
——昭和五十九年度——
……………
第九冊一四九(1769)——一五五(1775)

京都大学文学部哲学科講義題目
——昭和六十年度——
……………
第十冊一九三(1971)——一九九(1977)

京都大学文学部哲学科講義題目
——昭和五十二年度——
……………
第十一冊一五〇(2128)——一五七(2135)

京都大学文学部哲学科講義題目
——昭和五十三年度——
……………
第十二冊一五〇(2290)——一五七(2297)

京都大学文学部哲学科
教授・名誉教授・元教授追悼記事
……………
第三冊一三五(423) 園原太郎名誉教授
第四冊一三二(568) 山内得立名誉教授
第五冊一四七(715) 三宅剛一元教授
第八冊六一八(1618) 日原利国教授
第十冊一八八(1966) 島芳夫名誉教授
第十一冊一四八(2126) 田中美知太郎名誉教授

京都哲学会会員および縁故者

物故記事

朝永三十郎先生三十三回忌記事

物故前委員著作集刊行記事

京都哲学会公開講演会記事*

外国哲学者来訪記事

第八冊六一九 (1619)

第九冊一四三 (1763)

第十一冊一四九 (2127)

第十二冊一四八 (2288)

第七冊一〇八 (988)

第七冊一〇八 (988)

第一冊一四五 (145)

第二冊一四二 (288)

第八冊六一九 (1619)

第九冊一四三 (1763)

第十一冊一四九 (2127)

第十二冊一四九 (2289)

第一冊一四五 (141)

第五冊一四八 (716)

第九冊一四三 (1763)

第十二冊一五〇 (2290)

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

昭和三十九年度

京都哲学会受贈学術図書記事……………

第一冊一四五(145) 昭和五十五年度
第九冊一四三(1763) 昭和五十九年度

京都大学文学部哲学科講義題目・

論文題目等掲載箇所対照表(休載期間分)

第十二冊一五七(2297) — 一五九(2299)

「日本学術会議だより」内容紹介……………

第十二冊一五九(2299) — 一六〇(2300)

* 昭和五十七年度の京都哲学会公開講演会については、内容は、第五四五号の会告により了承されたい。